令和8年度　上田市立東小学校　　学校自己評価シート

学校目標	めざす子ども像
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども	1　自分の言葉で語り　聴き合い　自ら行動できる子ども【自己表現力】 2　自他のよさを認め　ふれ合って　協働的に学ぶ子ども【社会参画力】 3　向上心をもって　ねばり強く　最後までやり抜く子ども【課題探究力】

今年度の重点目標（重点活動）		
「子どもたちが 主人公の 幸せな学校」	主体性の追究	○授業改善～子ども主役の授業へ～ ○子どもたちが自分で計画実行する学習 ○子どもに合わせた多様な学習スタイル
	多様性に向き合う	○多様性を包み込む教育の推進 ○相手を受け止め　折り合いをつける力 ○「対話」と協働」と「笑顔」で多様性に体操
	つながる 広がる学校	○「挨拶」「懇談」「情報発信」で輪を広げる ○地域・保護者との横のつながりを広げる ○一中区学校園との縦のつながりを深める

総合評価					
成果と課題	**A**	**B**	**C**	**D**	**改善策・向上策**

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	主体性の追究	授業改善～子ども主役の授業～	・子どもの願いや問題意識を元に学習問題を設定し、子どもが自ら学ぼうとする導入場面を設定していたか。	子どもの疑問や生活経験を生かした導入が見られる。一方、教師主導で課題を提示する場面もある。		○			子どもの振り返りや発言を次の問いにつなげ、生活経験や本物の体験を生かして、子どもの願いから学習問題をつくる。
		子どもたちが自分で 計画実行する学習	・自分なりの方法で問題解決の見通しをもつ場面と、本時の学習のよさをメタ認知する場面を設定したか。	既習事項の確認や予想づくりは行われているが、見通しをもつことや学びを振り返る時間の確保が課題である。		○			振り返りの時間を確保し、「何を学んだか」「どうしてできたか」「次に生かすこと」を言語化する。単元を通した振り返りで成長を可視化する。
		子どもたちに合わせた多様な学習スタイル	・一人で学ぶ、友とともに学ぶなど、自分に合った学び方が保証される場面を設定したか。	個別学習やペア・グループ学習を取り入れている。一方、自分に合う学び方を選ぶことには改善の余地がある。		○			一人で考える時間と協働する時間を組み合わせ、学習の方法や学び合う友を自分で選べる場面を増やす。
	多様性に向き合う	よさやちがいを 受け入れ　認め合う	・友のよさに気付いたり、その人らしさを受け入れる態度が育まれるような授業や学級経営を行ったか。	友のよさを紹介したり、意見を交流したりする姿がある。交流の必要感や、発言する児童の偏りには課題が残る。		○			友のよさを具体的な行為や周囲への影響と結び付けて価値付ける。多様な児童が参加できる交流方法を工夫する。
		「憧れや思いやり」が生まれ「笑顔のバトン」をつなぐ交流活動	・学年や学級の枠を越えて、つながり合う異学年交流活動の機会を設けているか。	読み聞かせやレク、学年体育等の成果がある一方、継続的な実施にはつながっておらず、計画的な機会の確保が課題である。			○		年間計画に交流機会を位置付け、朝の時間等も活用する。相手の反応を振り返り、思いやりや憧れが育つ交流にする。
		一人ひとりが輝き 活動できる場づくり	・目標をもち、継続的に取り組んだり、新たに挑戦したりして、自らの成長に気付き、自信につなげることができるような取組ができたか。	目標をもって継続的に取り組み、できるようになったことが自信につながっている。努力の過程を可視化する工夫が必要である。		○			結果だけでなく努力や工夫の過程を、教師または子ども同士で認めあえるようにする。途中の振り返りや小さな節目を設け、成長と次の課題を実感できるようにする。
	つながる広がる学校	あいさつと返事で人と人の心をつなげる	・子どもたちが相手に気持ちが伝わるあいさつのよさに気が付くように、教師自らが気持ちのよいあいさつを実践したか。	教師から先に声を掛ける実践が見られる。一方、児童から返事が返らないなど、あいさつのすることの意味やよさの共有に課題がある。		○			教師が率先してあいさつし、一言添えて関係づくりにつなげる。あいさつの意味を児童と共有し、学校全体で温かな雰囲気を育てる。
学校運営		地域学習とキャリア教育で地域とつなげる	・地域の素材を教材化し、授業実践したか。	地域の自然や人、店舗等を教材化した実践がある。地域素材の活用には学年・教科による差も見られる。		○			教師自身が地域に足を運んで教材研究し、地域の自然・歴史・文化・人材を生活科や社会、理科等でも継続的に活用する。
		共に学校を拓き 信頼関係をつなげる	・学校での子どもたちの学びの様子を保護者や地域に発信することができたか	学級通信や連絡帳等で発信しているが、頻度や内容に差があり、子どもの学びや一人一人のよさを十分伝えきれていない側面がある。			○		無理のない発信方法・頻度を工夫し、学びの過程や児童一人一人のよさ、成長が伝わる具体的な姿を発信する。
	教職員の姿勢	教職員集団を学びと成長へとつなげる	・新しい発想で、前向きに、一歩でも前進しようと挑戦を試みたか。	新しい活動や発想を取り入れる実践がある。一方、業務分担の難しさや業務の多さにより挑戦する時間の確保が課題である。		○			係内での業務分担や業務の進め方を見直して挑戦の時間を生み出す。研修や実践のアイデアを共有し、小さな挑戦を認め合う。
		あらゆる垣根を越えてチームによる支援体制へとつなげる	・学級や学年の枠を超え、多角的な視点で児童理解を深め、よさや可能性を引き出すようにしているか。	教科担任制や他学年との交流が児童理解につながっている。一方、学級・学年を越えた情報共有の機会が限られている。		○			職員会等に児童理解・情報共有の時間を設け、各学年の様子や支援の手立てを共有する。交流や授業参観で多面的な理解を深める。

※評価基準　A…達成できた　B…おおむね達成できた　C…やや達成できなかった　D…達成できなかった